患者一人ひとりに丁寧なカウンセリングを実施

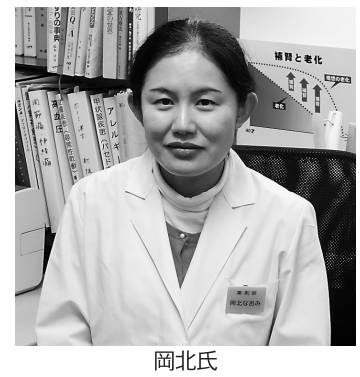
健康相談を通じて 漢方薬の良さをアピール

漢方のけやき堂薬局

阪急電鉄宝塚線の岡町駅、その近隣にある岡町商店街に位置する「漢方のけやき堂薬局」（大阪府豊中市）。表から見ると何の変哲もない漢方薬局のようだが、店内に入ると、一際目を引くのが、待合室に大きく陣取る「けやきの巨木」である。地元では『けやきの木が店内にある漢方薬局』として知られる同薬局を経営する薬剤師の岡北奈織美氏は、「漢方薬を通じて、患者さんにより近いところで、健康相談にも対応することは薬剤師としてのやりがいを感じている」と話す。同店では、何よりもカウンセリングを重視し、一人ひとりの患者の健康状態に応じて、OTC医薬品の漢方薬や、漢方の煎じ薬などの薬局製剤の販売や、養生法の提案を実践している。

商店街に立地、けやきのある薬局として知られる「漢方のけやき薬局」

落ち着いたクラシック音楽が響く店内。そのフロアの半分近くを占めるけやきの木が同薬局のネーミング通り、象徴的な存在でもある。薬局の立地する岡町商店街は、飛鳥時代に建立されたとされる近隣の原田神社の参道として栄えた歴史があり、神社の境内を利用してできた商店街ともいえる。当時の昆布屋が、店前にあった樹齢400年以上の神木だった「けやきの木」を切り落とされない形で店舗を改装して現在の形に。その物件を気に入った岡北氏が店舗を引き継いで、「漢方のけやき堂薬局」として2006年11月にスタートした。


岡北氏

同薬局では、「元気な方はより元気に」「漢方と家庭でできる養生法の提案」「心と体が元気になる」をコンセプトとし、カウンセリングを通して、東洋医学的視点から漢方薬や養生法（食事や生活など）の提案を行っている。来局者の85％が豊中市を中心とした大阪府在住者。中には豊中市から引っ越しで九州、東海、関東エリアに住む人も引き続き、自分の経過を知っている薬局で相談したいという人も多く、電話での健康相談や漢方薬の郵送販売も展開している。

最近、増えている相談は、婦人科系の生理不順、PMS、アトピー性皮膚炎、鼻炎の改善などだ。また、子宝に恵まれないという悩みを持って来局する30～40代の女性が多く、漢方薬の服用を勧めると共に、お腹に元気な赤ちゃんを宿すために必要な身体づくりを、個々の体調に合わせてアドバイスを行っている。なかには、けやきの木に手をかざして子宝祈願を行う患者もいるようで、同薬局ならではの特徴的な光景も散見されるようだ。

薬局内にあるけやきの木。店内に入ると一際目を引く

同薬局でのカウンセリング相談は、日中は混雑することが多く、初めての来局者については、約1時間を要するため、電話での事前予約制としている。カウンセリングでは体の症状を詳しく聞くと共に、体成分測定器などの機器で測定し、漢方薬の選薬のための参考としている。そこで決定した漢方処方に対して、煎じ薬などの調合を行い、服薬の仕方や、実践してもらいたい養生法などを伝えている。

店内には煎じ薬用の抽出機も設置されている

信頼関係の構築を第一に

マンツーマンで健康をサポート

カウンセリングは初回以降も定期的に実施。漢方薬を選択するための手立てでもある一方、副作用を起こさないという目的もある。「2回目以降のカウンセリングでは、睡眠状態や尿や便通など初回の症状との改善状態を比較し、改善している場合、そのことを説明することで患者さんも、体に自身を持てるようになってきます。なかなか良くならないことが患者さんにとっては一番ストレスになるため、良くなっているという自信を持ってもらうことも症状を改善していく上では重要です」とする。

漢方はその後押しをする助けとして、食事や生活習慣の改善などを柱にカウンセリングに取り組んでいる。「最初は、苦痛を和らげたいという方が多いが、だんだん、生活の質を重視される方が増え、健康で仕事をしたいとか、年齢を重ねる中で体のメンテナンスをしたいという方が増えています」という。

同薬局は全額自費のため、最終的には金額的な負担もあり、早期に効果が出なければ、服用を中止する人も少なくない。このため、どの程度で良くなるかというおおよその検討をつけ、まずは、5日分から1週間分の服用を勧めているという。現在、医療用漢方処方として医療保険適用されているのが148処方。同薬局では、一般用漢方製剤294処方についても対応しており、さらに煎じ薬の抽出機も設置しており、希望者に対応している。「漢方処方は、患者さんの体がどのような状態にあるかを知ることが大切で、処方に患者さんの体を当てはめるのではなく、患者さんの体に処方を当てはめるよう心がけています。さらに睡眠状態、胃腸の状態、食欲の有無、女性であれば生理の周期などをお聞きして、漢方処方を提案している」と岡北氏。

漢方薬局のイメージについて「初めて来局される人からは敷居が高いとよく言われます。また、相談しても高価な漢方薬を勧められるかもしれないという不安があるようです」と岡北氏。このため、岡北氏は常に、漢方の良さ、そして自身を含めた店舗スタッフをよく知ってもらうことを心がけているという。ホームページでも健康情報提供のほか、入り口に設置する黒板には、毎日読んだだけで元気になれる「ひと言情報」を記して掲示。

継続的に来局する人に向けては、ニュースレターを毎月発送するなど、患者との信頼関係の構築を第一に考えて取り組んでいる。

「漢方のけやき堂薬局」を開業して、今年11月で10年目を迎える岡北氏との漢方の出会いは、調剤薬局で勤務していた時期にある漢方メーカー主催の研修会に参加したことがきっかけだという。「かぜ症状に対する漢方薬の話の中で、葛根湯が体を温めて治すので、解熱剤と一緒に併用すると効き目が相殺されるため、時間を空けて服用するということに驚かされました」という。長崎大学大学院薬学研究科博士前期課程（修士課程）を修了後、大学病院での研修を経て、総合病院や調剤薬局で勤務していた岡北氏は、治療には西洋薬重視の考えがあったが、『身体を温めて治す』という漢方の考え方に衝撃を受け、漢方関連の勉強会にもチャンスがあれば積極的に足を運ぶようになった。

その後、神戸中医学研究会の勉強会を通じて知り合った、漢方専門クリニックの門前薬局で1年間、医療用漢方処方の調剤のほか、修治方法や煎じ薬の抽出を勉強。一方で、1日100枚以上の漢方薬の処方箋を応需する薬局だったため忙しく、薬剤師として、患者と向き合う時間は限られていた。

「もう少し、患者に近い存在になりたい」と考えていたときに、京都の漢方専門薬店（店舗販売業）の店長を探しているという話があり、3年間の期限つきで勤務することになった。京都の店舗では、マンツーマンで相談に乗り漢方薬を提案したり、生活や食事のアドバイスをじっくり行うなど、岡北氏が考える理想の漢方相談も実践できた。

3年を経過した当時、漢方専門薬局でスタッフを募集する店がほとんどなかったこともあり、漢方薬局の開業を決意。家族の理解もあり、かつて在住していた豊中市岡町の地の利を生かして、現在の場所に「漢方のけやき堂薬局」を開設。当時から「患者さんが良くなる事例をたくさん作りたくて、店に遅くまで残り勉強もしました。結婚していたのですが帰宅が午後10～11時になることもありました」という。

漢方の専門書籍から情報収集はもちろん、新薬や新しい治療に関する医学情報の収集にも余念がない。現在、ある漢方メーカーの研究会をメインに、『子宝カウンセラーの会』や『自然薬研究会』などの薬局主体の研究会に参加。自身が学んで得た知識を伝えるため、毎月1回は店舗スタッフ全員で勉強会を実施。提供する漢方薬を実際に服用することで味や効果などを体感する取り組みも行っている。

今後の取り組みについては「患者さんの近くでサポートすることが当初からの私自身の思い。患者のサポートをマンツーマンで取り組んでいきたい。また、漢方薬局で学びたい希望のある薬剤師も受け入れて教育も行っていきたい」と展望している。

【所在地】大阪府豊中市中桜塚1丁目2の9
【営業時間】月～金＝10～18時
土＝10～17時
【定休日】日曜日

医療機関・研究機関関係者、開発関係者など「臨床研究」や「治験」に携わる方が読んでおきたい一冊！！
被験者の人権と臨床研究・治験 ～そして、GCPと新たな倫理指針～
【著者】牧江 俊雄（医学博士） 四六判／163頁／定価 2,500円+税
薬事日報社 書籍のご注文は、オンラインショップ（http://yakuji-shop.jp/）または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。